

「皆が笑顔いっぱい! 魔法の子育て」 ～PECS を用いた生活支援～

講師：中谷 正恵さん (童夢)

1、娘さんの紹介

(1) コミュニケーションについて

知的障害を併せ持つ自閉症 (最重度)。

ipad の「PECS のアプリ」の使用を始め、1 年間ぐらいコミュニケーションブックとアプリの併用の時期がありました。

ビデオを見てわかっていただけだと思いますが、ノンバーバルの子が PECS でよくしゃべっていると思います。現在、理解コミュニケーションは進んできましたが、表出コミュニケーションの支援も少なくなり自発性が伸びました。どの子でも表出コミュニケーションスキルは伸びます。

(2) 感覚について

娘は5感の課題があり、偏食や排泄の問題や家では服を着れない等の問題がありました。なぜ着れないのでしょうか。原因は、素材、ウエストを締め付ける、色などが考えられます。家に帰るとすぐに着ている物を脱いでいたのですが、ずっとこのままではいけないと考え、裸は自分の部屋の布団の所ならよいとしました。ここから外に出る時は、「着る」というルールを作ると、家の中でも着られるようになりました。今は脱ぎませんが、パジャマを着て寝ることは難しかったです。

洗濯機、掃除機のモーター音がダメだったので、自分で使うようにすると、使えるようになりました。どれくらいで止まるかなどを教えると、安心して使えるようになりました。水、洗剤で遊ぶことなどを楽しむことの天才ですが、社会性が乏しいです。本人が感覚的に好きな物は目に入ると遊びに行くので、調味料等は鍵のあるところに片づけました。睡眠が整わなく、服薬の時期もありました。



(3) 視覚的支援と学校生活

4歳で TEACCH に出会い、小4まで TEACCH の療育をしました。小学校では個別スケジュールをしてもらいました。良かったです。集団参加が難しく、休んだ時は、家でできることを積み上げていきました。「卒業後は視覚的な支援などしてもらえなくなるので、高等部は視覚的支援をとっていきます」という学校でした。視覚的支援なしで学校生活を送るのは無理だと考え、進学はせず中学で卒業しました。高等部では情報量が多かったりするので、中学で卒業して本人ができることだけを行ったことは良かったかなと思います。

(4) 在宅支援と作業所への通所

23歳で母と2人での生活を開始しました。外ではいろいろな刺激でしんどくても、家では安心できるということが大切と思っています。

在宅支援で8年、その後、作業所（視覚的支援、TEACCHを理解しているところ）を選んで通所しています。理解していない作業所だと、1つ崩れると2次障害になりかねないです。

2、皆さんと共有しておきたいこと

(1) 何を学び、どう学習するか

パニックの場合、何に躓いているのでしょうか。教授の仕方がわかれば育っていきます。子どもはこれを学びたいとは言ってくれません。

優先順位で大切なのは何なのでしょう。時にはズームアウトをして、考えていくことが必要です。本人にとって何が大切で、何が必要かを ICF で確認することが必要です。

(2) 幸せは本人が決める！

幸せのあり方は人それぞれ違います。幸せは本人が決めることが大切です。いつも同じではなく、大きくなると変わります。楽しみだけでやりたくない時もあります。本人が10要求したら全部できないにしても、1つ、2つはしてあげられることはあります。パニックで苦しめるためだけに産んだのではないのです。

公平なサポートは、ひとり一人違うのです。

3、PECS との出会い

(1) PECS で拡大・代替コミュニケーションの獲得を！

何を本人が言えたらいいのでしょうか。「〇〇さん、〇〇ください」と、伝えれば手に入ります。難しい子でも学習する意欲はあります。「生活に何が足りないのか」、「それをどう教えるのか」を支援者が勉強をしないと教えることができません。

PECS は、話しことばがある子は拡大コミュニケーション、ことばで表出が難しい子は代替コミュニケーションの獲得をもたらしてくれます。子どもたちは、新しい人と対面する時は、PECS があると安心してかかわれます。コミュニケーション表出の支援は、小さい時から行うことが大切です。

(2) コミュニケーション学習の今後の課題

ipadのPEGSのアプリでは、ブックを分けて場面ごとにカードを整理することができます。買い物のシーンとかごとにブックからブックへの移動を行っています。環境調整は、情報整理としてとても大切です。

今後の目標は、「コメントのレッスンをしていく」。過去の記憶に頼ることが多いことを、今と未来を見ていくことにするため大切です。

いろいろな人にPEGSを使って自発的にコミュニケーションがとれるようにしていきたいです。自発的に使う言葉を、800語から1000語へが目標です。

4、まとめ

- 自分への支援のオーダーをする。
- より広く深いコミュニケーションへと展開させていくために、生活の中で楽しくレッスンできる環境が大切。
- 親や支援者がコミュニケーションの限界をつくらない。
- 幸せは、本人が決める。
- 公平なサポートは、ひとり一人違う。

5、質疑応答

Q1 地域の学校 行事の参加が難しいです。目標とか本人にとってプラスか悩んでいます。

A2 本人の学習としてプラスならいいが、いやな記憶をつけてはいけません。本人が混乱して、排泄や睡眠まで影響するのはどうかと思います。本人の人生が豊かになるように。考え方の似ている先生を介して学校へ言うなども。私は休ませることもしていました。

Q2 今までのコミュニケーションがありますので、絵カードでのコミュニケーションに抵抗のある保護者への対処は。

A2 何で嫌なのか本音で聞いていくことが大切です。カード作るのが嫌だったら、本当はダメだがデジタルからはいるなど協同して行っていくことが大切。

